

## 次期5か年計画の成果目標等の検討イメージ(案)

基本的な考え方	成果目標の検討例	成果指標の検討例	整備需要の把握や、優先順位付けなどに関わる検討事項
1. 安全・安心な教育研究環境の基盤の確保			
(1)耐震対策、防災機能強化、老朽改善整備等の推進	○学生や研究者等が安全・安心な環境において教育研究ができるよう、施設・ライフラインの耐震対策、防災機能強化等の教育研究診療環境の整備を推進	<b>【施設】</b> ○非構造部材の耐震対策(天井、窓、外壁等の落下防止等)の促進 ○その他の安全対策(ガス漏れ、漏電の防止等)の促進(経年25年以上) ○衛生対策(漏水、赤水、トイレ故障等)の促進(経年25年以上) ○長寿命化改修の促進  <b>【基幹設備(ライフライン)】</b> ○ライフラインの老朽・耐震対策の促進(概ね経年25年以上)	○次期5か年計画期間中の整備需要と、老朽化の進展状況 ○整備の優先順位の検討(例:①安全性確保、②衛生対策、③耐久性向上)  ※なお、長寿命化のための改修・維持管理の方策についても検討する(耐用年数や改修サイクルの考え方、老朽改善整備(改修・改築)に関して中長期的に要する費用の試算等を含む)
(2)地球環境に配慮したキャンパス形成	○地球温暖化対策などの社会のモデルとして先導的な役割を果たす取組を進める	○省エネ改修による大学等のCO2排出量の削減 ○キャンパス面で次世代の社会のモデルとなることを目指す取組の増加  ※国立大学等に相応しい施設の省エネ仕様、費用対効果を分析した上で検討	○優先順位の検討(例:CO2排出削減量の削減目標を立てて取り組んでいるなど、地球温暖化対策に積極的な大学等を優先する)
2. 国立大学等の機能強化への対応			
(1)国立大学等の機能強化を活性化させる施設整備	教育振興基本計画や国立大学改革プラン、科学技術イノベーション総合戦略等を踏まえ、以下のような施設整備の取組を進める  ○個々の大学の特性や強みを生かしつつ、キャンパスを創造的に再生し、国際競争力向上にも資する施設整備  ○グローバルに活躍する人材や、グローバルな視点を持って地域社会の活性化を担う人材の育成に向けた拠点となる施設整備  ○イノベーションの創出、イノベーションの担い手である人材の育成に向けた拠点となる施設整備  ○世界水準の教育研究拠点となる施設整備	<b>【キャンパス全体での機能の充実】</b> ○留学生宿舎の戸数の増加、混住型宿舎の割合の増加 ○全学生が授業時間外に学修できる学修スペースの増加  <b>【個々の施設機能の充実】</b> ○研究者の異分野交流を推進するスペースを持つ施設の増加(パブリック交流スペース、オープンラボなど) ○各大学等が自らの戦略上重要な研究プロジェクトや教育研究組織等のスペースを機動的に確保するため、流動性のある全学共用のスペースの増加(全学共用の総合教育研究棟など) ○先端的教育研究拠点について、十分な広さのスペースの確保 ○若手研究者の自立した研究に必要な研究スペースの増加 ○学生の能動的な活動を取り入れた授業や、双方向の授業展開のための授業スペースの増加 ○「見る」「見られる」空間にしたラーニング commons の増加 ○学生や研究者等の知的交流を促進する外部パブリックスペースの増加  ※海外の先進的な大学施設整備の取組等も踏まえ、国立大学等が目指すべき教育研究環境に係る成果指標を検討	○次期5か年計画期間中の整備需要の把握  ○優先順位の検討(優先する例) ・機能強化の方向性等を踏まえ、キャンパスマスタープランの基本方針等で重点課題を明確化していること ・施設の運用についても体制を整備していること ・機能強化のための施設・スペース等の資源再配分の取組を実施していること
(2)教育研究の活性化を引き起こす老朽施設のリノベーション	○十分な質を伴った学修時間を欧米並みの水準にすることなど、大学教育の質的転換のための学修支援環境整備  ○大学等が有する様々な資源を活用して地域の課題に取り組み、地域の活性化の拠点となる施設整備	○経年による施設機能の陳腐化の解消や、建物形状による制約等により教育研究の実施に支障のある老朽施設のリノベーションや、大学の戦略上必要な新たな用途へのコンバージョン(転用)の増加 ○特に必要性のある教育研究場の活性化等に資する改築の増加	○次期5か年計画期間中の整備需要の把握 ○優先順位の検討 ○改築の判断基準の検討
3. 財源の確保等			
○安定的な整備を実施するための予算の確保に向け、老朽改善整備(改修・改築)に関して中長期的に要する費用の試算を行う ○施設マネジメントの取組について、今後、成果目標、成果指標等を検討する			